

武蔵野文化協会ニュースレター

古文書の世界を探るー近世古文書部会の活動ー (近世古文書部会代表 根岸茂夫)

古文書部会は1976年に設立され、一時休会ののち1989年に再開され、月1回の講座を続けてきました。現在コロナ感染で中断を余儀なくされ、再開を待ち望んでいます。

十数名から数名という参加者ですが、時には脱線し、時には原文書や関係の絵図・瓦版などを手に取って熟覧し、楽しい時を過ごしています。これまで活字化されていない江戸時代のくずし字の史料を読んできました。今までに『武蔵野』誌上で一部を紹介したこともあり、たとえば関東取締出役河野啓助が文政9年(1826)に記した関東農村の見聞報告書(63巻1号・1985年)は、しばしば研究でも引用されています。また数年読み続けた『生涯夢の旅日記』は、近世後期に代官所の役人を歴任した鷹野領助という人物の自伝ですが、彼は鷹羽風と名乗った狂歌師でもあり、彼の波乱に満ちた人生には参加者も興味をそそられました。その一節の富士山登拝の紀行文(89巻1号・2014年)も紹介しました。

現在では、寺子屋の教科書『往来物』のうち、歴史系の木版本などを読んでいます。往来物は江戸時代に約6000種類作成され、特に歴史系往来物は、歴史上の人物の書状(創作)を集めた『古状揃』を始め、南北朝を題材に『南朝忠臣往来』、戦国の武田・上杉の争いを描く『甲越古状揃大全』などが作られ、子供たちの歴史知識や歴史観の基礎となりました。江戸時代の人々の歴史意識を読み解ければと考え、参加の方々と楽しく読んでいます。

◇会員の動向◇

●根岸茂夫「参勤交代行列の構造」公開学術講演会

本会副会長根岸先生は、33年間在職された国学院大学文学部教授の定年を迎えられ、現在名誉教授。

21年2月1日公開学術講演会を開催。「南部藩参勤交代図巻」を紐解きながら参勤交代行列の構造を約1時間ご講演。「古文書読解人」も必携(YouTubeで現在も公開中)。

●「森の未来を考える」シンポへの参加報告

21年7月11日、明治神宮参集殿で上記のシンポが開催。本会から理事4人が参加。午前の部は「事典」の書評を書かれた水内祐輔氏(本会員・東京大学)が参加する「林苑計画書から読み解く森の未来」で、午後は識者を集めた「永遠の杜への提言」であった。武蔵野に関する興味あるシンポであり、詳しくは次号『武蔵野』で紹介。「林苑計画書」は明治神宮の杜を読み解く貴重な資料、今回、現代語版が一組本会に寄贈されたご利用ください。

●くにたち郷土文化館「(夏季ミニ展示) 甲野勇 くにたちに来た考古学者」

21年7月22日～9月12日開催中。甲野勇(1901～1967)は、東京帝国大学理学部人類学科選科卒。国立に居住し縄文土器の科学的な編年研究者。1948年に武蔵野文化協会・武蔵野博物館設立に参画。8月21日、岡田淳子「(オンライン・ミュージアムトーク) 甲野勇先生の人と学問」(☎042-576-0211)

●シンポジウム「律令期の武蔵国府・国分寺ー調査研究から史跡整備の軌跡ー」

21年11月20日、於国分寺市泉ホール、主催・観光考古学会(会長坂詰秀一)。詳細は後日ご案内。

武蔵野文化協会

連絡先 〒362-0011 埼玉県上尾市平塚976-5 (加藤方)

電話・FAX 048-775-6918 メール kt-isao@jcom.home.ne.jp

ウェブサイト <https://musashinobunka.jp>

◇ 7月紙面総会の報告 ◇

○令和3年度武蔵野文化協会紙面総会は、6月末日まで特に異議はなく7月4日付にて承認されました。

I 9月紙上例会 武蔵野の野草を考える

No.1 「武蔵野の自然と人々との共生」の第3弾！

武蔵野の植生は、中央の武蔵野台地と丘陵地、台地東麓の荒川原野の3地域に分かれ、台地のススキ、ヤマユリ、キンラン、丘陵地のカタクリ、タマノカンアオイ、オドリコソウ、河岸原野のサクラソウ、ノウルシ、ヤマブキソウなど代表的な野草が分布する。武蔵野に暮らす人々の雑木林の定期的な伐採や再生の営みにより植物は維持される一方、都市化の進行による種の絶滅の危機や温暖化により、新たな武蔵野の植生の変化が見られる。

II 10月紙上例会 自然のめぐみと史跡の宝庫、野川流域を歩く

No.2 三鷹市の「大沢の里」エリアの一角を歩く全国稀例の上円下方墳や東京都史跡の横穴墓（火曜日閉室）、定番の近藤勇ゆかりの地や墓所、市施設の古民家や水車経営農家（有料・火曜休館）、武蔵野の森公園では戦闘機格納施設の掩体壕がある。（問合せ先：三鷹市教委生涯学習課 ☎ 0422-45-1151）

III 11月紙上例会 品川の陸（おか）台場を巡る

No.3 江戸時代、品川の御殿山は桜の名所、また江戸庶民の憩いの場。嘉永6年（1853）、ペリーが来航し幕府は江戸湾に砲台場の構築を計画、御殿山は土取場となる。土取で出土した人骨や五輪塔・板碑は法禅寺に納められた。翌年ペリーは来航し幕府は開国を選び、台場は役目を終えた。開国後、幕府は、欧米のため公使館を土取場跡に建築するが文久2年（1862）品川宿相州楼に集合した伊藤博文ら長州尊攘派により焼失。戦後の名画『幕末太陽伝』にも描かれる。

（コース）北品川駅—翡翠原石館—御殿山庭園（土取場、英仏公使館跡）—法禅寺（御殿山出土の板碑・五輪塔）—お台場跡（現台場小学校、御台場の土でできた陸台場）—土蔵相模跡（志士が密議した旅籠跡）—北品川駅

◇ 図書紹介 ◇

○『武蔵野事典』書評・新刊紹介 No.2

①加藤功「動向・紹介 武蔵野文化協会編『武蔵野事典』の刊行」（『埼玉地方史』第81号、埼玉地方史研究会、2021.4.30）②進士五十六「書評『武蔵野事典』武蔵野文化協会編」（『月刊考古学ジャーナル5』No.753、ニューサイエンス社、2021.5.30）③谷川章雄「書評 武蔵野文化協会編 武蔵野事典」（『季刊考古学』第155号、雄山閣、2021.5.1）④荒又美陽「書評『武蔵野事典』」（『多摩ニュータウン研究』No.23、多摩ニュータウン研究学会、2021.5.21） ※次号『武蔵野』第96巻第2号で全紙誌を転載予定。

○会員の図書

①水内佑輔「明治神宮御境内林苑計画」（『神園』第22号～24号、明治神宮国際神道文化研究所、2019.11.～2020.11）②坂詰秀一『転換期の日本考古学—1945～1965 文献解題—』（雄山閣、2021.7.25）③増井有真「関東地方における考古学者撰文古墳関連碑考」（『石造文化財』13、石造文化財調査研究所、2021.7.25）

◇ 会員の声 ◇

○25年程前に、住居が練馬区の西の端、武蔵野の真ん中にあり、見学会があることで会員に入会。仕事で50年近く関わった水関係に関心あり。5年程前の1月、加藤様らと三鷹市大盛寺の「武蔵野文化の碑（機関誌通巻356号87p写真参照）」の拓本取りに参加したことが思い出の一つ。昨年来、周辺の区・市の寺社等の「庚申塔」を見て歩いており、旧浦和市大牧の清泰寺（300庚申あり）と川口市の善行寺の見学を希望。（練馬区：鈴木繁）

○2019年度より武蔵野の民俗の視野を広げたく4月に入会しました。6月に「小机城跡今昔散歩」に初参加して、10月に会発足100年の歴史の中でフィールドワークの原点といわれた「石神井の自然と歴史」にも参加できました。20年9月刊『武蔵野事典』が片手に出来たことも大変幸運でした。WEBサイトが公開され、誌上例会を推進されていることに感謝します。なお、10月例会で一緒した故中條道雄様のご冥福をお祈りします。（川崎市多摩区：稲本あかね）

○長老中條道雄様は本年4月14日88歳にてご逝去、ご冥福を祈ります（昭和46年8月入会・会員歴50年）。

※次号「文協ニュースレター」第3号は12月発行予定。「会員の声」欄は本会へ入会の動機、思い出に残るフィールドワーク、今後希望する事業、研究成果を200字程度で。「情報提供」欄は武蔵野に関する動向（チラシのみ提供可）、投稿者は事務局へ、次回原稿〆切11月下旬厳守。（『武蔵野文化協会ニュースレター』第2号：令和3年8月1日発行）